

さつきた★

ボランティア通信

2021年2月号
Vol.9

発行
札幌市北区ボランティア
活動センター

8割以上が縮小、休止 ～コロナ禍のボランティア～

ボラ連アンケート

北区ボランティア連絡会は、コロナ禍でボランティア活動が制限されている中、会員の皆さんのボランティア活動に対するアンケート調査を昨年11月に実施したところ、8割以上の方が活動を縮小、または休止していることがわかりました。

アンケートは社協のボランティア登録者311人と55団体を対象とし、120件から回答がありました。北海道の新型コロナウイルス緊急事態宣言（2月末）以降のボランティア活動の状況を尋ねたところ（複数回答）、「以前と変わらない」（25人、20.8%）、「ボランティアの機会が少なくなった」（42人、35.0%）、「ボランティアを全くしていない」（57人、47.5%）で、8割以上の方が縮小、休止を余儀なくされたようです。個人よりも団体のほうが活動を継続している割合が高く、個人のほうが社会環境によって行動が大きく制限、停止されることがうかがえます。

サロンや研修会で取り上げてほしいテーマとしては、「コロナ禍でも活動できる方法」「ボランティア同士の交流」「傾聴やコミュニケーションの方法」などが挙がりました。自由記述ではやはりコロナへの不安や収束への願いを記入された方が多く、インターネット活用への興味など、意欲的な意見も見られました。80歳の方からは「活動の日は元気で足や腰の痛みも感じられず、朝からワクワクする」といったボランティアへの熱い思いが感じ取れる記述もありました。

ご協力ありがとうございました。



【札幌市北区ボランティア活動センター】

お手伝いを探している方と手を貸せる方を結びつける役割を果たしているのが当センターです。どうぞお気軽にお問い合わせください。

〒001-0024 札幌市北区北24条西6丁目1-1 北区役所1階
社会福祉法人 札幌市北区社会福祉協議会内

【相談時間】8:45～17:15（土日祝日、年末年始除く）

【TEL】011-757-2482 【FAX】011-737-7270

【HP】<http://www.sapporo-shakyo.or.jp/about/kita-shakyo/>



消毒、ビニールの仕切り…

感染対策しっかり ～高齢者デイサービス～

コロナ禍でボランティア活動が思うようにいかない中、ケアセンター「ら・せれな」（百合が原3丁目）は、デイサービスのみボランティアを受け入れています。緊急事態宣言時などに休止したこともありましたが、感染対策を徹底してボランティアを受け入れ、温かい交流を続けています。

入館する際はまず手指の消毒をし、体温チェックをした後、名簿に氏名や来館目的等を記載します。室内ではテーブルなどの消毒はもちろんのこと、利用者同士は離れてテーブルにつき、目の前にはビニールの仕切りがあります。昼食時、どうしても隣り合う場合はアクリル板を設置します。

訪問した1月21日のボランティアは男女各2人。昨年2月から通い始めた魚岸吉儀さんの活動内容は、お茶出しや会話、麻雀の相手に加え、コロナ禍によりトイレの手すりや車の消毒作業も引き受けています。ボランティアの先輩である妻のすすめで退職後に始めたそうで、「母親が入所施設でとても世話になったという思いがあるので、今度は自分が手伝おうと思いました。利用者さんや職員に喜んでもらえるのが何より」と活動の原動力となる思いを教えてくださいました。



ボランティアの佐藤洋子さんと魚岸吉儀さん

「ボランティアというよりも自分の好きなことをやらせてもらっている感じです。利用者さんから教えられることもあります」と話し、ともに楽しんでいる様子がうかがえます。

施設の担当者は「ボランティアは単なるお手伝いではなく、利用者さんとボランティアの方とで互いに元気をもらい、健康に役立っていると思います。受け入れを休止していたときも連絡を取り合っていました」と再開を心待ちにしていたようです。ボランティアも職員同様の感染防止マニュアルを活用し、外出を控えるなど「とても意識の高い方々に支えられています」と感謝の思いが伝わってきました。



ビニールの仕切りで感染対策



ステイホームで雪まつりを楽しんで

コロナ禍によりさっぽろ雪まつりは会場開催を見合わせ、オンライン開催となります。最近では会場まで足を運ぶことは少なくなりましたが、海外や道外からのお客様でにぎわう街中の活気から、雪まつりが始まった…と実感できました。今年はステイホームで雪まつりを楽しみましょう。



